

公益社団法人 日本工学会

## 令和 6 年度 事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

令和 6 年度事業報告書

CPD 関連抜粋

## 公益目的事業 2：人材育成支援・技術者教育推進事業(定款第 4 条第 1 項第(3)号、(4)号)

### 〔1〕技術者教育・CPD (Continuing Professional Development) 促進事業 (CPD 協議会)

全体 (事業の成果・体制・課題・方針など)

2024 年度は、Covid-19 パンデミックによる厳しい活動制限から解除され、CPD 協議会運営委員会等では実開催を復活させ、従来 of 活動に戻った。具体的には、公開シンポジウム、各委員会 (運営委員会、CPD プログラム委員会、ECE プログラム認定委員会、ECE プログラム委員会、CPD 広報委員会)、各 ECE プログラム (AI2oT、ナノファブスクエア、プロセス新塾、電気・電子系高度技術者育成) の全てについて、オンライン形式も取り入れながら、当初の事業計画を実施した。

#### 1. 全体活動

##### (1) CPD 協議会シンポジウム

第 1 回公開シンポジウムとして、2024 年 12 月 12 日にオンライン形式で開催した。小林傳司先生から「科学技術・イノベーションと社会：ELSI/RRI を考える意義」のテーマで基調講演頂き、近年、科学技術政策において注目を集め始めている ELSI/RRI について、その歴史と概略を説明いただいた。その後、本多敏先生から、ECE プログラム・プロセス塾 16 年として、SICE プロセス新塾一考究の紹介があり、技術者倫理の必要性についても言及があった。朱喜哲先生からは、「企業内哲学者」の視点から、ELSI 領域における産学共創の実践についての講演があり、データビジネスの最前線では、E (Ethical、倫理的課題) 対応がきわめて重要になっているとのことであった。講演者全員による意見交換を通じて、先端科学技術が飛躍的に発展している今日では、「科学と社会をつなぐ技術者の役割」がより一層重要となっており、社会との関わりの視点も取り入れた技術者の継続学習の必要性が、改めて明確となった。参加者数は 94 名であった。

なお、第 2 回 CPD 協議会シンポジウムは 2025 年 3 月 4 日 (火) 開催の「第 6 回世界エンジンニアリングデー記念シンポジウム」を共催する形で実施した。

##### (2) CPD 協議会全体会議

2025 年 2 月 10 日～28 日に書面審議として開催し、事業報告・事業計画などについて報告・審議を行った。

##### (3) 広報活動・対外連携の強化

CPD の認知度の向上、企業・学協会の CPD 活動の支援、CPD 協議会ウェブサイトの充実、報道メディアとの連携、中小企業との連携模索、CPD 広報委員会活動などにより広報活動を進めた。

#### 2. CPD プログラム委員会関連活動

今年度は、会員学協会で実施している CPD プログラムの調査等の負担が大きかったため、委員会開催回数は年間 2 回に留め、下記活動を推進した。

##### (1) CPD ウェブサイトなどの活動基盤再整備

会員各学協会の関連サイトへのリンクの充実を図る等、各学協会からの活用利便性の向上を図った。

##### (2) CPD 活動に関するグッドプラクティス、情報共有体制の強化、ならびに CPD ガイドラインの活用

昨年度 13 年ぶりに改訂した日本工学会 CPD ガイドラインに基づき、会員学協会で開催している CPD プログラムの実施状況を調査し、CPD 活動に関するグッドプラクティス、情報共有を行った。

すなわち、改訂日本工学会 CPD ガイドラインでは、2021 年に国際エンジニアリング連合 (IEA) が改訂した PC(Professional Competencies : 専門職としての知識・能力) を取り込むと共に、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画、技術士制度検討の動向、前年度に開催した公開シンポジウムにおける議論も踏まえ、技術者を取り巻く環境の変化、産業界のニーズや動向を把握し取り纏めた。特に、国際エンジニアリング連合が改訂した 13 項目の PC(専門職としての知識・能力) に着目し、地盤工学会、ターボ機械協会、電気学会、電子情報通信学会、土木学会、日本冷凍空調学会、プレストレストコンクリート工学会の 7 学協会の協力をいただき CPD プログラムの実施状況を調査し、集計結果を共有した。

### (3) 学協会 CPD 活性化支援

国や産業界のニーズ、学協会が進める CPD 活動の課題などについての情報共有を進めるとともに、会員学協会の CPD を活性化するための支援活動を前年度に引き続き推進した。文部科学省が進めている技術士制度検討では、技術士に留まらず広く技術者・エンジニア全般に関わる議論にも繋がることから、審議会での議論や動向についての情報共有を行うと共に、CPD の公的記録開始に伴い日本技術士会が設置した CPD 活動関係学協会連絡会に引き続き参画した。特に今年度から議論が活発化している、高等教育機関卒業時に取得すべき能力である GA (Graduate Attributes) を強化し PC を取得するために行う活動を、社会全体で支援する仕組みである IPD (Initial Professional Development) システムについては、今後、学協会が貢献する余地も多いため、その検討状況の共有と共に貢献についての議論を開始した。

## 3. ECE (Engineering Capacity Enhancement、高度技術者教育) プログラム委員会関連活動

オンライン形式で ECE プログラム認定委員会、ECE プログラム委員会を開催して以下の活動を推進した。

### (1) ECE プログラムの継続実施

今年度は、エレクトロニクス実装学会が主催する「AI2oT ECE プログラム」、4 大学ナノ・マイクロファブ리케이션コンソーシアムが主催する NANOBIC ナノファブスクエア ECE プログラム」、計測自動制御学会が主催する「プロセス新塾」、電子情報通信学会が主催する「電気・電子系高度技術者育成プログラム」を計画通り継続支援し、産業界からの積極的な参加を得た。

### (2) 新規 ECE プログラム開発の支援

ECE プロモータを派遣し、かつて ECE プログラムを実施していた NIMS 推進委員会幹事との意見交換や今後プログラムの開発検討を進めている。その他、教育活動に熱心な団体を調査した。(調査継続中)

### (3) ECE プログラムの広報

各学会でのウェブサイト・学会誌・総会・講演会など広報機会を捉えて ECE プログラムの認知度を高めた。高度技術者育成の重要性を広め、また次年度受講生募集に努めた。なお、電子情報通信学会・エレクトロニクス実装学会・計測自動制御学会では AI について共通講義を行い、喫緊の技術課題について各分野・異市場での高度技術者育成を図った。(次年度以降も実施予定) 異分野主宰団体の連携は刺激的で広報効果も高いと判断される。

### (4) ECE プログラム・プロモータの育成

「ECE プログラムの開発と実施のガイドライン」について機会を得て各地で紹介し、プロモータ育成に努めた。ECE 活動の認知度は徐々に上がりつつある。

なお、例えば計測自動制御学会「プロセス新塾」ではプログラム修了生有志が推進委員会に入り、推進委員会の世代交代が徐々に進みつつある。

#### 4. 広報委員会関連活動

「CPD に対する認知度向上」、「わかりやすい継続学習の勧め」を基本的なミッションとして、  
「CPD を促進する一口メモ」を CPD 協議会ウェブサイトへ No.19、No.20 の 2 件を掲載した。

#### 日本工学会 CPD 協議会 全体会議

| 回                | 開催年月日                       | 会議内容                                           | 参加人数 |
|------------------|-----------------------------|------------------------------------------------|------|
| 第1回<br>メール<br>開催 | 2025 年<br>2 月 10 日～<br>21 日 | 2024 年度事業報告・2025 年度事業計画の原案に関して書面<br>確認で最終の意見集約 | 27 名 |

#### 運営委員会

| 回            | 開催年月日                         | 会議内容                                                                   | 参加人数 |
|--------------|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------|------|
| 第1回<br>(51回) | 2024 年<br>6 月 10 日            | 各委員会報告<br>日本工学会 社員総会資料                                                 | 6 名  |
| 第2回<br>(52回) | 2024 年<br>8 月 28 日            | 各委員会報告<br>2024 年度第1回 CPD 協議会公開シンポジウムの企画<br>第6回世界エンジニアリングデーシンポジウム開催について | 7 名  |
| 第3回<br>(53回) | 2024 年<br>9 月 27 日            | 各委員会報告<br>2024 年度第1回 CPD 協議会公開シンポジウムの企画                                | 5 名  |
| 第4回<br>(54回) | 2024 年<br>10 月 31 日<br>WEB 会議 | 各委員会報告<br>2024 年度第1回 CPD 協議会公開シンポジウムの企画<br>第6回世界エンジニアリングデーシンポジウムの企画    | 7 名  |

#### CPD プログラム委員会

| 回            | 開催年月日                        | 会議内容                                                                                                                              | 参加人数 |
|--------------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 第1回<br>(82回) | 2024 年<br>8 月 2 日<br>WEB 会議  | CPD 協議会運営委員会報告<br>第5回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムのアンケート<br>結果報告<br>各会員学協会が実施する CPD プログラムに関するアンケート集<br>計結果報告                               | 12 名 |
| 第2回<br>(83回) | 2025 年<br>2 月 17 日<br>WEB 会議 | CPD 協議会運営委員会報告<br>CPD 協議会 2025 年度事業計画・2024 年度事業報告について<br>技術士制度における IPD (Initial Professional Development :<br>初期専門能力開発) 制度の審議状況報告 | 13 名 |

#### ECE プログラム 認定委員会・委員会

| 回              | 開催年月日                        | 会議内容                                                 | 参加人数 |
|----------------|------------------------------|------------------------------------------------------|------|
| プログラム<br>認定委員会 | 2024 年<br>5 月 28 日<br>WEB 会議 | 2023 年度 ECE プログラム完了報 4 件並びに 2024 年度継<br>続申請 4 件審議・承認 | 4 名  |

#### CPD 広報委員会

| 回                | 開催年月日                           | 会議内容                                                                    | 参加人数 |
|------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------|
| 第1回<br>メール会<br>議 | 2024 年<br>4 月 27 日<br>～6 月 28 日 | CPD を促進する一口メモ No.19 「北欧が目指す日本の古<br>き良き製造技術にはサステナブルな社会では変革が必要」の<br>検討・作成 | 3 名  |
| 第2回<br>メール会<br>議 | 2024 年<br>8 月 16～<br>10 月 31 日  | 会議内容：CPD を促進する一口メモ No.20 「LiB の火災事<br>故と社会問題」の検討・作成                     | 3 名  |

#### 公開シンポジウム

| 回   | 開催年月日                         | 会議内容                                                                                                                                                                              | 参加人数 |
|-----|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 第1回 | 2024 年<br>12 月 12 日<br>WEB 開催 | 基調講演者として科学技術振興機構 社会技術研究開発セン<br>ター長の小林傳司先生から「科学と社会をつなぐ技術者の役<br>割」のテーマでシンポジウムを開催した。<br>ECE プログラムを代表して塾長の慶應義塾大学名誉教授<br>本多先生から、「SICE プロセス新塾－考究」と題して、技術<br>者教育における技術者倫理の必要性について紹介があった。 | 94 名 |

|             |                             |                                                                                                                                                                          |                 |
|-------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
|             |                             | <p>電通 チーフ・リサーチ・ディレクター大阪大学 朱准教授からは、「企業内哲学者」の視点から、講演があった。</p> <p>パネル討論では、先端科学技術が飛躍的に発展している今日では、「科学と社会をつなぐ技術者の役割」がより一層重要となっており、社会との関わりの視点も取り入れた技術者の継続学習の必要性が、改めて明確となった。</p> |                 |
| 第 2 回<br>共催 | 2025 年<br>3 月 4 日<br>WEB 開催 | 第 5 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムを共催                                                                                                                                             | 79 名<br>(一般参加者) |